

JICA 基金活用事業 案件概要

I. 事業の概要	
1. 事業名称	はまっこ多文化ストーリーズ：外国ルーツと日本人の中高生が出会う対話の場
2. 活動国・地域	日本・横浜
3. 事業分野	<input type="checkbox"/> 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する事業 <input checked="" type="checkbox"/> 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する事業
4. 事業の目標	本事業は、横浜に暮らす外国ルーツを持つ中高生と日本人の中高生が、心理的安全性の高い環境のもとで継続的に対話し、互いの背景や価値観を尊重しながら関係を築ける状態を目指すものである。単発の交流機会にとどまらず、ZINE 制作（参加者自身の言葉や表現をまとめた小冊子）という協働活動を通じて、参加者一人ひとりが自分の経験やルーツを肯定的に捉え直し、他者理解を深めることで、地域の中で多文化共生を実感できる若者同士のつながりを育むことを目標とする。あわせて、学校・地域関係者（地域で活動する外国ルーツ当事者や支援団体等）・大学生サポーター等が関わる実施体制を構築し、次年度以降も継続可能な地域協働型の実践モデルとして定着させることを目指す。
5. 事業の背景・経緯・対象地域の課題・人びとのニーズ	12万人超の外国人が居住する横浜市では、日本人生徒の「傍観的態度」と外国ルーツ生徒の「孤立」により、同じ地域にいながら交流が乏しい実態がある。既存の支援は日本語教育や場所の開放に留まり、双方が抱える心理的な抵抗や偏見を解消し、関係を深めるための設計が十分ではない。そのため、安全性が担保された環境で対話と協働を重ね、互いのルーツを肯定的に捉え直す場の構築が求められている。
6. 事業の意義・目的	横浜に住む、外国ルーツを持つ中高生と日本人の中高生が、心理的安全性の高い環境で対話し、互いの経験や価値観を学び合いながら共同で ZINE を制作することを通じて、①横浜において、文化的人種的ルーツを超えた若者の共生と学びの場を創出すること②外国ルーツを持つ若者と地域の人々とのつながりを生み出すことを目的とする。
7. 主な対象者（受益者）	横浜に住む、外国ルーツを持つ中学生、高校生・横浜に住む、日本人の中学生、高校生
8. 実施期間	（西暦）2026年 4月10日～2027年 4月9日
9. 活動内容	1. 外国ルーツと日本人の生徒が協働する「ZINE（参加者自身の言葉や表現をまとめた小冊子）制作プログラム」を年2～3回実施。ZINE 制作を通じた自己表現、および文化的ルーツを超えた対話の場を創る。 2. プログラム参加者が継続的に集い交流できるフォローアップ交流期間を設け、日本人・外国ルーツの中高生が相互に交流し、大学生サポーター等がその対話や関係づくりを支えることで、安心して過ごせる居場所づくり、多様なロールモデルとの出会い、存続的なコミュニティ形成を促す。 3. 地域関係者に向けた報告会を実施する。 4. 学校、地域関係者、支援者に向けた制作した ZINE の配布を行う。
9. 事業費	883,990 円
II. 団体の概要	
1. 実施団体	一般社団法人多様性ストーリーラボ
2. 主な活動内容	①外国ルーツを持つ当事者の心理的支援と地域とのつながり育成 ②多様性・多文化共生をテーマに実践知・研究知の交換や勉強を行うコミュニティ運営